

# ぎのわんの 歴史・文化遺産を 歩く 其の1

みなさん、こんにちは！今月号から「はくぶつかの部屋」と交互に、「ぎのわんの歴史・文化遺産（文化財）」を紹介いたします。

本市には、豊かな自然と歴史・文化に育まれた数多くの有形・無形の遺産があります。それらの遺産は、永く私たち市民の祖先が生成発展させてきた薫り高い市民環境の一つであり、地域の歴史と文化を知る大切な市民共有の財産でもあります。

さらに、去る沖縄戦において、多くの人命とともに数多くの自然・歴史・文化的財産を失った私たち市民にとって、その価値はより高いものといえますし、児童・生徒にとつて人が持つて生まれた人としての知恵と工夫を教える生きた学校教材でもあります。

また、沖縄戦と戦後の基地造成およ



地域の文化財に学ぶ！



地域の文化財を活かす！



地域の文化財を守る！

び都市化の波によって、戦前来の古い村落に関わる歴史・文化遺産は減少の一途をたどり、私たち宜野湾特有の伝統的知識と技術を記憶に残す古老年を追うにつれて数少なくなっており、その継承が危ぶまれています。

そこで、このコーナーでは、①市内の歴史・文化遺産に関する最新の情報と、②地域の歴史・文化遺産を大切に守られてこられた土地所有者や自治会・郷友会・各種団体の文化財を活かした地域づくりの取り組み、③そして、市教育委員会の普天間飛行場やキャンプ瑞慶覧基地の返還予定地のまちづくりを活かされる歴史・文化遺産の取り組みなどを紹介いたします。

今月号の写真は、国指定重要文化財の喜友名泉を活かした喜友名区自治会等の取り組みを添えております。

問合せ・文化課 ☎8933-4430

## 茶 ぐわーゆんたく 97

### 鳥トリドリ!? 鳥のあれこれ

朝、「チヨコレート、チヨコレート」という声で目覚めることはありませんか？これはタイワンシロガシラという鳥の鳴き声です。このように鳥のさえずりなどの節まわしを、それに似たことばで置き換えることを「聞き做し」と言います。



▲タイワンシロガシラ

今回は、宜野湾市内で見ることのできる鳥について色々紹介します。

まず、首を前後に振りながら歩く姿がユニークなキジバトです。方言名をホトウあるいはヤマボトウと言います。次のようなものがあります。「クトウクイクイ（鳴き声） ウスン クリク（潮も汲んできなさい） ミジン クリク（水も汲んできなさい） ックワグワ（水もエー ナサワ クイーグトウ（子どもが一つできたらやろうね）」。



▲キジバト

これは宇地泊で採録されたものですが、このような形で童謡風に言われることが多いようです。次はアカショウウ

ビンです。方言名はクカルーと言うところが多いですが、真志喜ではアカコッコロというそうです。夏鳥（※①）で、目にする機会が留鳥（※②）より少ないためでしょうか、それとも色鮮やかな赤色のせいでしょうか、厄鳥とされています。家に飛び込んでくると、不吉なことがおきるとされ、厄を除くために浜下り（※③）をしたり、屋根の上に二ワトリの首を刺して置くというところもあるようです。鳥類は身近な動物だけあって、民話や諺などにも出てきます。みなさんも色々調べてみませんか？



▲アカショウビン

- （※①）夏鳥：春から初夏の頃に南国から子育てのために渡ってくる鳥。
- （※②）留鳥：季節移動せず、一年中見ることのできる鳥。
- （※③）浜下り：海浜に下りて災厄を払い清める習俗。

**移転します！**  
※5月1日より市立博物館内に移転します！  
『宜野湾市史』への問合せ  
文化課 市史編集係（市立博物館内）  
☎870-9317